

編集を担当するにあたって

機関誌編集委員長 森 雅夫

若山氏の後をひき継いで、この5月からもうすぐ40巻にも達しようとするOR誌の編集に当たることとなり、その重責を感じております。幸い、副委員長逆瀬川氏をはじめ有能な方々を編集委員にお願いし、スタートを切ることができました。

これまで、歴代の編集委員会が特集記事を中心としたスタイルで、「面白くて、ためになる」OR誌の紙面づくりに努力してこられました。今委員会も、すでにテーマ会議を2回開き今後の方針を検討いたしました。基本路線は従来のとおりですが、会員の各層が、毎月どこかに興味をもって読んでいただけるような紙面づくりを、より一層心がけたいと考えております。

特集・解説・講座

その1つとして、解説・講座等の記事を多くする予定です。ページ数に制約がありますので、そのぶん、特集の分量を若干減らすこととなります。テュリアルなもの、実践向きな内容の講座、いま話題のトピックスを紹介する情報価値の高い解説や読み物を増やしてゆきたい所存です。また、ORの活動をグループで遂行している企業を訪問し、その様子を紹介するコーナーも年に何回か設けたいと考えています。編集委員会のメンバーは本業の方も忙しい方ばかりで、どれだけ機動力を発揮できるか難しいところもありますが、その節は皆様のご協力をお願いいたします。

特集・解説・講座・企業訪問等について、編集委員会でも十分アンテナを張ってゆくつもりですが、皆様からも面白そうな企画案を積極的にお寄せくださいますようお願いしております。

OR誌の企画を実現してゆくためには、およそ7、8カ月の仕込み期間が必要です。通常は、①企画粗案→②著者（または、オーガナイザ）との折衝→③企画の決定→④執筆等の手配→⑤執筆→⑥編集委員会によるチェック→⑦割り付け、校正→⑧最終印刷の流れを踏みます。原稿の締切は、⑥以降の作業が円滑に行なえるよう設定

しています。編集委員会によるチェックは、少しでも読者の読みやすい記事となるよう、最初の読者として原稿を読み、必要があれば著者に書き直しをお願いしております。

第38巻につきましては若山委員会企画され大体の予定が決まっております。その余裕をいただいて、もっか第39巻の企画を煮つめているところです。上に述べたような工夫が少しでもできたらと考えております。

論文・事例研究、研究レポート、総合報告

論文・事例研究、研究レポートについても従来どおり積極的に募集してゆきます。JORS. Jの方は論文をそのまま写真製版できるよう各自で清打ちの実働をお願いしており、清打ちを学会で行なう場合は相応の費用を負担していただいております。OR誌も同様な対応を近い内にせざるを得ないと考えています。

また、OR誌の論文は、機関誌であるという性格上、論文誌の論文以上に読みやすさ、わかりやすさが必要と考えています。長さについても、特集や解説・講座等の記事は息が切れずに読める長さということで、従来から5、6ページをお願いしております。OR誌の投稿論文もこの精神でゆきたいと考えています。厳密な議論は多少犠牲にさせていただいても、重要と思われるメッセージをわかりやすく伝えていただきたいと思っております。応募案内（506ページ）をご参照の上どしどしご投稿ください。

また、ある分野の第一線の様子をご紹介するために、総合報告も企画したいと考えています。

今回は研究レポート、事例研究の審査済み論文を早めにご紹介するため、1冊にまとめてみました。

田口・大山氏の論文は、図表を含めて清打ちされた原稿を写真製版したものです。他の活字で組んだ記事と比べて読みやすさはいかがでしょうか。

OR誌を面白くするよう編集委員会一同努力いたす所存ですが、皆様のますますのご理解ご支援を心よりお願い申し上げます。